

平成25年度

# 事業報告書

公益財団法人 通信文化協会

# 目 次

|    |  |   |
|----|--|---|
| 1  | はじめに                                     | 1 |
| 2  | 逓信総合(郵政)博物館の運営事業                         | 1 |
|    | (1) 逓信総合博物館の運営事業                         | 1 |
|    | (2) 郵政博物館の運営事業                           | 2 |
| 3  | 前島密賞の贈呈事業                                | 2 |
| 4  | 会報「通信文化」の発行事業                            | 3 |
| 5  | 文化活動の運営事業                                | 4 |
|    | (1) 文化講演会の開催等                            | 4 |
|    | (2) 青少年ペンフレンドクラブ(PFC)への活動支援              | 7 |
|    | (3) ホームページの見直し                           | 7 |
|    | (4) 社会貢献活動の実施                            | 7 |
| 6  | 土地・建物賃貸事業                                | 8 |
| 7  | 施設管理事業                                   | 8 |
| 8  | 会員に対する諸施策                                | 8 |
|    | (1) 記念品等の贈呈                              | 8 |
|    | (2) インターネットを活用した「つうしんぶんか<br>メンバーズクラブ」の活用 | 8 |
|    | (3) 叙勲祝賀会(会費制)の開催                        | 9 |
|    | (4) 新年賀詞交歓会(会費制)の開催                      | 9 |
| 9  | 中西重思・遺児育英基金の管理・運営                        | 9 |
| 10 | 団体傷害保険等の取扱                               | 9 |
| 11 | 会員増加対策                                   | 9 |

|     |                |       |     |
|-----|----------------|-------|-----|
| 1 2 | 役員会議等開催状況      | ..... | 1 0 |
|     | (1) 理事会        | ..... | 1 1 |
|     | (2) 評議員会       | ..... | 1 1 |
| 1 3 | 協会本部の組織・業務の見直し | ..... | 1 1 |

## 1 はじめに

本協会は、明治41年5月に通信協会として発足、同43年には「財団法人通信協会」に改組し、百余年の歴史を刻んできたが、平成24年3月28日、内閣総理大臣から公益財団法人として認定を受け、同年4月1日に「公益財団法人通信文化協会」として新たにスタートした。

通信総合博物館は、同日から郵政資料部門及びNTT資料部門を当協会が一体的に設置・運営してきたが、大手町二丁目地区の再開発に伴い、通信総合博物館が入居する通信ビルが取り壊されることとなり、平成25年8月末をもって閉館した。

このため、NTT資料部門は同年10月末をもって東日本電信電話株式会社からの委託が終了し、郵政資料部門は平成26年3月から展示施設を「郵政博物館」に改め、東京スカイツリータウン・ソラマチ9階にオープンした。

収蔵施設は同年12月から千葉県市川市 行徳郵便局内に移転した。

当協会は通信総合博物館（平成25年8月31日閉館）及び郵政博物館（平成26年3月1日開館）の運営、前島密賞の贈呈、通信文化の普及・発展等に関する事業を行い、もって我が国の手紙等文字コミュニケーション文化と情報通信・放送文化の向上に寄与することを目的として文化活動等各種施策を実施した。

## 2 通信総合(郵政)博物館の運営事業

### (1) 通信総合博物館の運営事業

#### ア 展示活動

郵政資料部、NTT資料部が一体となって業務に取り組み意欲的な展示活動を行った。

8月31日の閉館までに3回の特別展を開催、閉館最終日には「さよならていぱーく」として、先着500名限定の記念グッズの配布や博物館オリジナルのスーベニアスタンプの設置のほか、銀座郵便局による記念小型印の押印サービスが行われ、5,600名を越すお客様が訪れた。閉館時刻前から閉館セレモニーを行い、多くの方に惜しまれながら大手町での49年間の歴史に幕を下ろした。

通信総合博物館特別展開催状況

| No | 主催者               | 特別展名  | 期間                     | 開催日数 | 入館者数(人) |
|----|-------------------|---|------------------------|------|---------|
| 1  | 通信総合博物館<br>日本郵趣連合 | 全日本切手展2013                                  | 4月16日(火)<br>~4月21日(日)  | 6    | 3,611   |
| 2  | 通信総合博物館           | 大通信資料列品展                                    | 5月3日(金・祝)<br>~8月11日(日) | 87   | 18,879  |
| 3  | 通信総合博物館           | さよならていぱーく<br>夏休みファミリーイベント<br>「スポーツ&感覚体験ひろば」 | 8月17日(土)<br>~8月31日(土)  | 13   | 15,619  |
| 4  | 通信総合博物館           | さよならていぱーく<br>閉館セレモニー                        | 8月31日(土)               | 1    | 5,669   |

#### イ 照会に対する回答・資料貸出等

一般利用者からの各種問合せのほかに、新聞社・テレビ局・出版社等からの取材照会も多く、時代考証や正確な記載内容といった点で寄与している。

|           |         |      |
|-----------|---------|------|
| 〈問合せ回答件数〉 | ア. 郵政関係 | 434件 |
|           | イ. 電話関係 | 58件  |
|           | 合計      | 492件 |

また、館外における対外的活動としては、他博物館の特別展、出版社の教科書・雑誌の制作等に際し、当館保管の通信関連資料等の貸出しを行った（217件）。また、展示機器の説明等に関して、適宜、支援を行った。

#### ウ 土曜・日曜・祝日ワークショップ等の開催

絵手紙、消しゴムハンコ、字手紙、起こし文など様々なワークショップや参加型郵便体験「スペースポストマン」を毎週土・日・祝日に開催し、好評を博した。

#### エ 電信電話教室

博物館ホール・教室・会議室において電信電話教室を開催し、一般の方や企業の新入社員を対象に講義や案内・説明を行った。

### (2) 郵政博物館の運営事業

#### ア 展示活動

本年3月1日に東京スカイツリータウン・ソラマチ9階に郵政博物館を開館し、グランドオープン当日は10時からオープニングセレモニーを開催、一般公開を11時からとした。

また、3月1日と2日の2日間については、入館者先着250名に開館記念ノベルティを、それ以降の入館者には開館記念絵はがきセットを配布したほか、向島郵便局による記念小型印の押印サービスを行った。

企画展示場では開館記念特別展として、「一少女たちの憧れー 落谷虹児」展（3月1日（土）から5月25日（日）まで）を開催した。

#### イ 郵政博物館部資料センターの活動

資料センターは12月に千葉県市川市内に移転後、大手町から移動した収集資料の整理及び配架作業を行い、資料の貸出及び特別閲覧・撮影の対応、主に郵便局を対象とした切手パネル・制服レプリカの簡易貸出等、逓信総合博物館時代から引き続いたサービスを円滑に提供するための準備や同センター運営のための環境づくりを行った。

### 3 前島密賞の贈呈事業

前島密賞は、逓信事業の創始者である前島密の功績を記念し、その精神を伝承発展せしめるために昭和30年度に創設されて以来、情報通信及び放送に関して顕著な功績のあった方々917名(団体を含む。)に贈呈して功績を称え顕彰し、情報通信・放送文化の発展に寄与してきた。

平成25年度の前島密賞(第59回)については、これまでの総務省及び旧官業系推薦機関に、平成23年度に電気通信事業者協会、日本ITU協会、日本民間放送連盟、文字・活字文化推進機構を加え、更に今年度、テレコムサービス協会、電波産業会、日本ケーブルテレビ連盟の民間

事業者団体を加え、全推薦機関を11機関として、贈賞対象者の幅を広げて実施した。

平成25年7月18日に新しい募集要綱をHP上で公表し、9月30日を締切日とし、2回の選考委員会及び理事会の議を経て25名（うち共同研究15名）・1団体の受賞者を決定し、本年3月25日に多数の参加者の下に贈呈式を開催した。

#### 4 会報「通信文化」の発行事業

協会の公益財団法人への移行や名称変更に伴い、誌名を「通信協会雑誌」から会報「通信文化」に変更、会報のサイズもA5判からB5判へ拡大して2年目。誌面のゆとりや読みやすさは号を追うごとに定着してきたことに加え、電気通信、放送分野の記事を適宜掲載し、郵政記事に偏ることのないように事業関係記事のバランスに配慮したほか、各種連載コラムの拡充、「談話室」など読者参加ページの毎月確保など、昨年度に引き続き会報の充実を図ることができた。

記事については、次表のとおり、岡野裕基金記念講演会シリーズの講演録を中心に特集として編集した。新年号では早稲田大学大隈講堂(小講堂)で実施した通信文化フォーラムから、第二部パネルディスカッションの様態を掲載した。

また、厳しい協会財政の下、会報の充実のための新たな財源として、昨年度に引き続き広告収入の確保に取り組んだ。

年間12回 684,000部発行 (月平均57,000部)

| 発行月       | 特集記事                           | 執筆者又は話し手                          |
|-----------|--------------------------------|-----------------------------------|
| 25年<br>4月 | 岡野裕基金記念講演会<br>私たちと社会保障(後編)     | 小樽商科大学商学部教授<br>片桐由喜               |
| 5月        | 第58回前島密賞受賞記念講演<br>ありがとうをわすれないで | 財団法人丸岡町文化振興事業団<br>常務理事 大廻政成       |
| 6月        | 岡野裕基金記念講演会<br>夢の実現(前編)         | 東京国際大学女子サッカー部監督<br>元なでしこジャパン 大竹七未 |
| 7月        | 岡野裕基金記念講演会<br>夢の実現(後編)         | 東京国際大学女子サッカー部監督<br>元なでしこジャパン 大竹七未 |
| 8月        | 国際ボランティア貯金調査団視察記<br>ミャンマーを訪ねて  | 一般財団法人ゆうちょ財団<br>専務理事 厚井達夫         |
| 9月        | 岡野裕基金記念講演会<br>引き算の美学(前編)       | 俳人 黛 まどか                          |
| 10月       | 岡野裕基金記念講演会<br>引き算の美学(後編)       | 俳人 黛 まどか                          |
| 11月       | 岡野裕基金記念講演会<br>落語家修行(前編)        | 落語家 立川 談四楼                        |

|           |                                |                           |
|-----------|--------------------------------|---------------------------|
| 12月       | 岡野裕基金記念講演会<br>落語家修行（後編）        | 落語家<br>立川 談四楼             |
| 26年<br>1月 | 岡野裕基金 通信文化フォーラム<br>パネルディスカッション | 早稲田大学国際学術院教授<br>樋口 清秀ほか4名 |
| 2月        | 岡野裕基金 通信文化フォーラム<br>基調講演 日本の覚悟  | ジャーナリスト 鳶 信彦              |
| 3月        | 岡野裕基金記念講演会<br>計画から実行実現へ        | 岐阜県多治見市長 古川 雅典            |

## 5 文化活動の運営事業

### (1) 文化講演会の開催等

本協会の元会長である故 岡野 裕氏の夫人からの寄附(1億円)による「岡野裕基金」により、次のとおり文化活動を行った。

#### ア 文化講演会・実践手紙講座等

| 地方本部 | 開催日             | 施策名等                   | 講師                            | 開催場所                   | 参加者       |
|------|-----------------|------------------------|-------------------------------|------------------------|-----------|
| 北海道  | 25. 7. 6        | 文化講演会<br>「落語家修行」       | 落語家 立川談四楼                     | 大空町                    | 350       |
|      | 25. 8. 1        | 絵手紙教室                  | 日本絵手紙協会公認<br>講師 箕浦 尚美         | 札幌市                    | 16        |
|      | 25. 9. 7        | 文化講演会「介護の<br>社会化とは何か」  | 小樽商科大学教授<br>片桐 由喜             | 深川市                    | 250       |
|      | 25. 10. 4       | スマホ教室                  | NTTドコモグループ                    | 札幌市                    | 10        |
| 東北   | 25. 10. 18      | 文化講演会「八重と<br>会津と日本人」   | 作家 五十嵐佳子                      | 会津若松市                  | 148       |
|      | 25. 10<br>~11   | 絵手紙教室                  | PFCアドバイザー<br>早坂睦子・飛田 操        | 岩手・宮城・<br>福島 の3県       | 延べ<br>100 |
| 関東   | 25. 10. 6       | 文化講演会「個を活<br>かすチームづくり」 | 元女子ソフトボール<br>日本代表監督<br>宇津木 妙子 | 千葉市                    | 215       |
| 東京   | 25. 10. 27      | スマホ教室                  | NTTドコモグループ                    | 東京都                    | 10        |
| 信越   | 25. 11. 23      | 手紙教室                   | 蓬平郵便局長<br>中村 聡                | 長岡市                    | 45        |
| 北陸   | 25. 10. 17      | 絵手紙教室                  | 日本絵手紙協会<br>公認講師 竹内 寛治         | 福井市                    | 20        |
| 東海   | 25. 10. 5       | 文化講演会「計画か<br>ら実行・実現へ」  | 多治見市長<br>古川 雅典                | 名古屋市                   | 320       |
|      | 25. 7. 9<br>~23 | 手紙教室                   | 日本絵手紙協会<br>公認講師等              | 愛知・岐阜・<br>静岡・三重の<br>4県 | 延べ<br>356 |

|    |   |                                  |                                      |      |     |
|----|---|----------------------------------|--------------------------------------|------|-----|
|    | 25. 8. 2  | スマホ教室                            | N T T ドコモグループ                        | 名古屋市 | 9   |
| 近畿 | 25. 10. 19  | 文化講演会「先住民<br>族の叡智：現代文<br>明社会の再考」 | 東京大学名誉教授<br>月尾 嘉男                    | 大阪市  | 205 |
|    | 25. 11. 8   | スマホ教室                            | N T T ドコモグループ                        | 大阪市  | 10  |
| 中国 | 25. 8. 11   | 絵手紙教室                            | 絵手紙講師<br>大塚 悦実                       | 倉敷市  | 16  |
|    | 25. 8. 23<br>25. 8. 28<br>25. 11. 30<br>25. 12. 1 | 親子絵手紙教室                          | P C F アドバイザー<br>森貞 和子、山田 澄枝<br>横山 清子 | 広島市  | 263 |
|    | 25. 11. 1   | スマホ教室                            | N T T ドコモグループ                        | 広島市  | 10  |
|    | 25. 10. 25  | 親子手紙教室                           | P C F アドバイザー<br>入口 高士                | 宿毛市  | 40  |
| 四国 | 25. 11. 23  | 文化講演会「八重と<br>会津と日本人」             | 作家 五十嵐 佳子                            | 高松市  | 250 |
| 九州 | 26. 1. 19   | 文化講演会「介護体<br>験は、自分の老い<br>のリハーサル」 | エッセイスト<br>羽成 幸子                      | 鹿児島市 | 350 |
| 沖縄 | 25. 12. 1   | 手紙教室                             | P F C アドバイザー<br>熱田 昌成                | うるま市 | 30  |

#### イ 岡野裕基金記念文化講演録の刊行

平成22年以降、平成24年10月までに各地で開催した「文化講演会」について、協会会報「通信文化」に掲載された講演記事を一冊の講演録として刊行し、郵送料負担により希望する協会会員に配布した。

- (ア) 発行数 2, 000部
- (イ) 掲載講師数 10名
- (ウ) 掲載講演録 11講演

#### ウ 通信文化フォーラムの開催

今日の通信環境は、郵便や電話・新聞といった伝統的な通信メディアだけでなく、インターネットにつながるパソコンやスマートフォンなど現代のコミュニケーションラインは高度に多様化しており、このような状況における安心・安全で信頼し得るコミュニケーション社会の在り方を考えるための通信文化フォーラムを開催した。

- (ア) 開催月日 平成25年10月12日(土)
- (イ) 会場 早稲田大学大隈講堂(小講堂)
- (ウ) プログラム
  - 基調講演 日本の覚悟～大変動の世界～  
講師 鳶 信彦(ジャーナリスト)



○ パネルディスカッション

- コーディネーター ・ 樋口 清秀（早稲田大学国際学術院教授）  
 パネリスト ・ 近藤 則子（老テク研究会事務局長）  
 ・ 曾我 邦彦（全国PTA協議会 元会長）  
 ・ 安田 雪（関西大学社会学部教授）  
 ・ 遊橋 裕泰（NTT ドコモモバイル社会研究所主任研究員）

- (エ) 参加者 265名  
 (オ) 主催 公益財団法人 通信文化協会  
 早稲田大学ヒューマンリソース研究所

エ てづくりレターコンクールの実施

オリジナルの手紙を創造する楽しさを通じて、文通の促進や手紙文化の振興を図ることを目的とした「てづくりレターコンクール」を昨年に引き続き実施した。

コンクールには、全国から2,006点の作品が寄せられ、第1次審査会、第2次審査会を経て96作品が入賞・入選した。ホームページ上で受賞者を発表したほか、入賞作品をまとめた作品集を発行し、関係機関や入賞者に配付した。さらに、今年度応募数の多かった団体のうち、毎年優秀な作品を応募された2団体に、団体賞として記念品を贈呈した。

- (ア) 募集期間 平成25年8月1日（木）～25年10月6日（日）  
 (イ) 主催 公益財団法人 通信文化協会  
 (ウ) 協賛等 協賛：日本郵便株式会社、公益財団法人日本郵趣協会  
 協力：日本郵政株式会社  
 後援：公益社団法人日本青年会議所  
 こどもの部・学生の部の後援：全国都道府県教育委員会連合会  
 (エ) 審査員 審査員長／畦地教子（株式会社日本ホールマーク 代表取締役社長）  
 審査員／貝淵純子（切手デザイナー）、松尾謙一（公益財団法人日本郵趣協会 事務局長）、諸井 緑（デザイナー）、山下健一郎（日本郵便株式会社 郵便事業部 切手・葉書室 担当部長）、葉 祥明（絵本作家）、安藤三男（公益財団法人通信文化協会 文化事業部長）

(オ) 入賞者数

てづくりレター部門及び絵はがき部門

| 部門      | 区分    | 通信文化協会賞 | 日本郵便賞 | 日本郵趣協会賞 | 審査員奨励賞 | 佳作 | 入選 | 計(人) |
|---------|-------|---------|-------|---------|--------|----|----|------|
| てづくりレター | こどもの部 | 1       | 1     | 1       | 1      | 2  | 10 | 16   |
|         | 学生の部  | 1       | 1     | 1       | 1      | 2  | 11 | 17   |
|         | おとなの部 | 1       | 1     | 1       | 1      | 3  | 7  | 14   |
| 絵はがき    | こどもの部 | 1       | 1     | 1       | 1      | 2  | 9  | 15   |
|         | 学生の部  | 1       | 1     | 1       | 1      | 2  | 10 | 16   |
|         | おとなの部 | 1       | 1     | 1       | 1      | 3  | 11 | 18   |
| 合計      |       | 6       | 6     | 6       | 6      | 14 | 58 | 96   |

(2) 青少年ペンフレンドクラブ（PFC）への活動支援

ア 地域交流会活動支援

手紙によるコミュニケーションの活性化を全国的に広めるため、次の日本郵便(株)各支社において開催された「PFC会員交流会」の講師の手配、会場の確保などの支援を行った。

【青少年ペンフレンドクラブ地域交流会実施状況】

| 開催支社等            | 会 場  | 参加者 | 講 師            | 内 容 等                    |
|------------------|------|-----|----------------|--------------------------|
| 北海道 (26. 3. 16)  | 札幌支社 | 30人 | 蓑浦 尚美          | 併せて 絵手紙教室開催              |
| 東 北 (26. 2. 23)  | 仙台支社 | 13  | 黒金みゆき<br>早坂 睦子 | 併せて 英文手紙教室・絵手紙教室開催       |
| 中 国 (25. 12. 14) | 広島支社 | 21  | 森貞 和子<br>義始 源三 | 併せて 手作り年賀葉書作成体験ワークショップ開催 |
| 九 州 (26. 3. 2)   | 熊本支社 | 11  | 支社社員           | 併せて 手紙作成体験開催             |

イ 「レターパーク」読者プレゼント

「レターパーク（会員会報誌 毎月1回発行）」は、PFC会員メリットの重要ツールとなっている。

読者に「通信文化協会」のPRも兼ねて、抽選により約20名へ賞品（レターセット等）と会報「通信文化」を贈呈した。

<期間：平成25年5月号から平成26年4月号>

(3) ホームページの見直し

平成14年度に開設したホームページについては、各種情報の迅速な提供と、各種催事等多目的な活用を提供することとし、情報の公開、地方本部も含めた協会主催イベントのタイムリーな掲載、新規会員加入申し込み案内など、会員や通信文化に関心を有する皆さまの情報の拠点としている。

○ 主なコンテンツ

- ・「財団の概要」→公益財団法人としての情報公開
- ・「事業案内」→公益財団法人としての事業紹介
- ・「郵政博物館」→郵政博物館の展示資料やイベント情報等を紹介
- ・「前島密賞」→前島密賞の「募集要綱」や「受賞者の功績」を紹介
- ・「刊行物」→通信文化協会の会報誌「通信文化」の目次を掲載して掲載事項を紹介
- ・「お知らせ」→全国の協会主催イベント及び博物館イベント等をタイムリーにお知らせ
- ・「協会だより」→お知らせで案内した各種イベントの開催結果を案内

(4) 社会貢献活動の実施

社会貢献活動の一環として、ポスト清掃等を次のとおり実施した。

| 地方本部 | 開催日        | 開催地域   | 参加者(人) |
|------|------------|--------|--------|
| 北海道  | 25. 8. 1   | 赤平市    | 14     |
|      | 25. 8. 5   | 札幌市    | 5      |
|      | 25. 8. 16  | 札幌市    | 6      |
| 関東   | 25. 4. 20  | 柏市     | 39     |
|      | 25. 10. 19 | 東松山市   | 25     |
| 東京   | 25. 6. 8   | 杉並郵便局  | 58     |
|      | 25. 10. 19 | 荻窪郵便局  | 54     |
|      | 26. 2. 22  | 杉並南郵便局 | 72     |
| 四国   | 25. 6. 1   | 松山市    | 200    |
| 九州   | 25. 8. 4   | 熊本市    | 50     |
| 沖縄   | 25. 12. 3  | 那覇市    | 14     |

## 6 土地・建物賃貸事業

全国6か所に所有している土地は、引続き日本郵便株式会社ほかへ賃貸しているほか、湯島の建物について引続き賃貸を含めて活用した。

## 7 施設管理事業

逓信総合博物館の施設関係について、東日本電信電話株式会社及び日本放送協会の2機関から電気・空調等設備維持管理業務を受託していたが、逓信総合博物館の閉館、事務所の移転に伴い受託業務は終了した。また、逓信総合博物館と同一ビル内に所在する日本電信電話株式会社の電気・空調・衛生・消防設備の保守等施設管理業務の受託も終了した。

## 8 会員に対する諸施策

会員に対して、次の施策を実施した。

### (1) 記念品等の贈呈

ア 公益財団法人として移行後の会員サービスとして、従来実施していた「長期在会記念品」の贈呈サービス基準を見直し、満61歳を迎える年度以降に在会10年以上となる個人会員1,675人に対し、「長期在会記念品」を贈呈した。

イ 米寿を迎えた個人会員503人に「米寿記念品」を贈呈した。

ウ 協会手帳を配付した(希望者のみ)。

### (2) インターネットを活用した「つうしんぶんかメンバーズクラブ」の活用

会員サービスの一環として、インターネットを活用した会員専用のポータルサイトを平成24年8月に立上げ、安価な価格で物品購入等が可能なネットショッピングや各種サービスを紹介・提供している。また、時季に応じた字句を使った川柳の募集など企画イベントを行うことにより参加者を募り、新規会員加入勧奨のツールとして利用促進を図った。

### (3) 叙勲祝賀会(会費制)の開催

勲章を受章した関東・東京地方本部所属の会員を対象に、本部及び関東・東京地方本部の共催で、春と秋(米寿祝賀会を併合開催)に祝賀会を開催した。米寿祝賀会は、その対象者が増加しているため、秋の祝賀会から上期(1～6月)誕生者を対象とし、下期(7～12月)誕生者の米寿祝賀会は翌年春の叙勲祝賀会と併合開催することに変更した。また、北海道、東北、中国及び九州地方本部においても叙勲祝賀会を開催した。

### (4) 新年賀詞交歓会(会費制)の開催

東京都内と関東在住の会員を対象に、本部及び関東・東京地方本部の共催で1月10日、東海大学校友会館(霞が関ビル35階)において開催した。また、北海道、東北、東海及び中国地方本部においても新年賀詞交歓会を開催した。

## 9 中西重思・遺児育英基金の管理・運営

長年、郵政審議会委員などを務め郵政事業に貢献された中西重思氏の遺言により、在職中に死亡した郵政関係社員の遺児(満18歳未満の子)育英のために、平成12年10月に中西育英基金(4億5百万円)が設立された。当会がその管理、運営を委ねられ、以後、遺児に対して1人40万円を給付し養育の支えとなっている。

平成25年度の給付状況は次のとおり。

○ 件数(対象となった遺児数) 48件 80名 (前年度 28件43名)

○ 給付金 3,140万円 (前年度1,720万円)

(注) 旧給付金額(1人20万円)の時点でのもの2件3人分を含む。

平成25年度末までの給付額の累計は3億2,180万円(599件・対象遺児1,002人)となった。

## 10 団体傷害保険等の取扱

通信文化協会会員及び郵政グループ職員を対象とする福利厚生のための傷害保険等契約状況は、次のとおりである。

【平成25年度における契約状況】

| 区 別       | 口・件 数 | 保 険 料  |
|-----------|-------|--------|
| 団 体 保 険   | 67千口  | 539百万円 |
| 団 体 扱 保 険 | 5千件   | 301百万円 |

## 11 会員増加対策

平成25年度の会員増加対策については、公益財団法人への移行2年度目として、新規入会キャンペーンの継続や公益財団法人として会費が寄附金扱いとなる税制優遇措置の活用のアピール、会員への諸施策の実施により加入獲得に努めることとし、新規加入目標を3,900人、純増目標を1,000人に設定して取り組んできた。

その結果、新規加入目標の推進状況は、3,515人(対目標90.1%)となり、目標達成に及ばないものの、対前年度末の個人会員数に対し36人の純減にとどまった。

会員の現況は次のとおりである。

| 区 別     | 平成25年度末 | 平成24年度末 | 増・減(▲) |
|---------|---------|---------|--------|
| 個人会員(人) | 57,841  | 57,877  | ▲36    |
| 法人会員(口) | 713     | 667     | 46     |

(地方本部内訳)

| 区 別 | 平成25年度末 | 平成24年度末 | 増・減(▲) |
|-----|---------|---------|--------|
| 北海道 | 4,982   | 5,082   | ▲100   |
| 東北  | 6,439   | 6,569   | ▲130   |
| 関東  | 6,815   | 6,735   | 80     |
| 東京  | 4,805   | 4,874   | ▲69    |
| 信越  | 4,190   | 4,230   | ▲40    |
| 北陸  | 2,141   | 2,115   | 26     |
| 東海  | 6,516   | 6,515   | 1      |
| 近畿  | 7,740   | 7,488   | 252    |
| 中国  | 4,526   | 4,561   | ▲35    |
| 四国  | 2,896   | 2,943   | ▲47    |
| 九州  | 6,390   | 6,374   | 16     |
| 沖縄  | 401     | 391     | 10     |
| 合 計 | 57,841  | 57,877  | ▲36    |

(参考)

「免除会員及び在会15年以上となる終身会員に対する寄附のお願い」として、平成22年度から会報の配付を希望する会員には会報郵送料等相当の寄附(支援)をお願いしており、25年度は2,583人の会員から総額3,670,510円(払込手数料控除後)の寄附収入があった。

## 1.2 役員会議等開催状況

重要案件の審議のために開催した会議は、次のとおりである。

### (1) 理事会

#### ○ 第4回 理事会(平成25年6月6日)

- <議案>
- 1 平成24年度事業報告
  - 2 平成24年度決算報告
  - 3 特別寄附金の受入れ
  - 4 平成25年度前島密賞推薦機関の拡大
  - 5 定時評議員会の開催

#### ○ 第5回 理事会(平成25年6月20日)

- <議案> 定款の変更

- 第6回 理事会（平成26年1月22日）
  - <議案> 第59回前島密賞の授賞者決定

- 第7回 理事会（平成26年2月28日）
  - <議案> 1 平成26年度事業計画
  - 2 平成26年度収支予算
  - 3 第4回評議員会の開催
  - 4 役員等の再任

## （2）評議員会

- 第3回 評議員会（平成25年6月20日）
  - <議案> 1 議長の選出
  - 2 議事録署名人の選出
  - 3 平成24年度決算報告
  - 4 定款の変更

- 第4回 評議員会（平成26年3月19日）
  - <議案> 1 議長の選出
  - 2 議事録署名人の選出
  - 3 平成26年度事業計画
  - 4 平成26年度収支予算
  - 5 役員等の再任
  - 6 評議員の選任

### 1.3 協会本部の組織・業務の見直し

通信総合博物館の閉館、NTT 資料部門の廃止、移転、展示施設の名称を改めての郵政博物館の開館、収蔵施設の移転設置など博物館業務を加えた協会全体の置かれている環境が大きく変わったため、4部体制から3部体制に変更し要員の削減や配置、業務の見直しなどを実施した。

また、郵政博物館の立地環境に合わせて開館時間及び勤務時間の30分繰下げや、原則無休の不定期休に的確に対応するための管理体制を構築するなどして、通信文化の普及・発展により一層努め、社会的要請に応えることとした。